



しんたいの儀
神対面の儀
(五社の宮司が奉持して
いるのが国の守護神を意
味する守公神)



古式座問答

さがみこうのまち 相模国府祭とは

毎年5月5日、相模国一之宮寒川神社・二之宮川勾神社・三之宮比々多神社・四之宮前鳥神社・平塚八幡宮・総社六所神社が大磯の斎場に集まり、国家安泰・五穀豊饒、諸産業の繁栄を祈念する相模国最大の祭典が国府祭です。

《ご由緒》

大化改新(645年)以後、地方には国々が再編成され、新たに赴任した国司は、任国に着くと先ず最初に巡拝と称してその国の有力大社を参拝して回る制度がありました。しかし時代がたつにつれて、国司の巡拝は大変な日数と費用、人員を要するため、やがて巡拝する神社の御分霊を国府近くの神社に合わせ祀るならわしが起こり、これが総社の起源となります。そして国司は巡拝をやめて総社に神拝し、国内安泰の祈願所としました。そこで国司は総社に御分霊を納めていただくために、各神社に神輿を以て国府に集まるようお願いしました。これが国府祭のはじまりともされています。

さがみこうのまち

相模国府祭六社めぐり

《祭典当日》

■午前9時30分 総社御大祭 総社六所神社にて総社御大祭が斎行され、相模の国の安泰と繁栄、国府祭の無事斎行が祈られます。

■午前11時 神揃山祭 それぞれの神社をお発ちになった総社を除く五神社の神輿は、神揃山とよばれる斎場にお集まりになり、無事な着御の奉告と国家安泰・五穀豊饒を祈願する祭典が営まれます。

■正午 古式座問答 これは一之宮と二之宮の間で、神座を表す虎の皮の敷く位置の上座を争い、三之宮の宮司が四之宮そして八幡宮と相談のうえ「いずれ明年まで」と仲裁に入り円満解決するものです。その昔、相模国は相武と磯長に分かれており、その合併に伴い国司が参拝する順番を決めるため、二国それぞれの大きな神社(寒川神社・川勾神社)のうち、どちらが一番大きな神社か決めなければならませんでした。この論争の様子が儀式化され、神事となったのです。

■午後 大矢場祭典 各神社の神輿は午後2時に神揃山をお発ちになり、ふもとの大矢場に到着。ここには総社六所神社がお出ましになり、五社の神々にお供え物が献じられます。

■午後3時40分 神対面の儀 一之宮から八幡宮の五社の宮司は御分霊である守公神を総社に納め奉ります。この守公神は一年間相模の国の守護神として総社に祀られます。

■午後3時50分 国司奉幣の儀 裁許の儀 国司(大磯町長)が各神社に捧げ物をし、巡拝します。最後に総社の宮司が五社を巡拝し、すべての神事は終了となります。その後、各神社の神輿は帰路へとつきます。

《国司とは》

当時の国々の長官のことで、現在の各都道府県の長(知事)に相当します。

《神奈川県指定無形民俗文化財》

国府祭のように国司による行事は、古くは全国的に行われていたのですが、相模の国のようにほぼ完全形で継承されているのはきわめて稀で、大変貴重な祭典となっております。

《六社めぐり》について

国府祭のご由緒をもとに、古き習わしにない相模国六神社を参拝することは、靈験あたらかな御神威の験を戴かれ、ご自身はもとより、それぞれのご家庭や会社等にさらなる幸せと繁栄がもたらされることでしょう。

尚、六社めぐりは一日でも巡拝できますが、時間に余裕をもち、ゆっくりと参拝されることをおすすめ致します。ご参拝の際には、参拝記念の《開運守公神》を是非お受け下さい。

◆お問い合わせ/相模国府祭類社会 ☎0463(71)3737
〒259-0111 神奈川県中部大磯町国府本郷935 六所神社々務所内

訪ねてみませんか

こうのまちななふしぎ

国府祭七不思議

★の数字はイラストマップ上の位置

◆不思議一《神体石と塚》★

国府祭斎場、神揃山に鎮まる六体の神体石。そして点在する塚。配置の意味や埋藏品は未だ謎である。

◆不思議二《幻の国司巡拝ルート》

国司の各神社を巡拝するルートは今だ謎である。当時の街道、橋などが偲ばれる。

◆不思議三《相武国と磯長国》

かつて相模国は、相武と磯長の二国に分かれていた。しかし両国の境界、首長の墓などは未だ謎である。

◆不思議四《神社と古墳》

国府祭関係神社周辺には古墳が多く見られる。ご祭神や古代相模国の豪族、権力との関係が考察される。

寒川神社→大神塚古墳★

川勾神社→神付近古墳★

三之宮比々多神社→三之宮古墳群★

前鳥神社→真土大塚山古墳★

平塚八幡宮→八幡宮境内古墳★ など

◆不思議五《相模川沿いに坐す神々》

寒川神社・前鳥神社・平塚八幡宮の三社は相模川をはさみ、均等に直列して鎮座している。宗教的意味は謎である。

◆不思議六《国府祭への道》

かつて三之宮比々多神社の神輿は、国府祭神揃山へ直進した。神輿行列により踏まれた畑・水田は実りが良かったと伝えられる。

◆不思議七《鶴の舞と船形舞台》★

国府祭で奉演される鶴の舞は、古くは国司や相模の豪族たちをもてなすための舞で京都より伝えられ、国府時代の名残を現代に伝えている。舞台が船の形をしているのは、当時の貴族文化・寝殿造の影響である。

一之宮 さがみかわ 寒川神社



■相模国一之宮 式内社 名神大社
相模国を始め、関八州総鎮守の神として古くから朝野の信仰が殊に厚く、およそ1500年前、雄略天皇の御代に奉幣のことが記されており、以後御歴代の奉幣、勅祭が行われたとあります。

交通 JR相模線宮山駅 下車8分。
住所 神奈川県高尾郡寒川町宮山3916番地
電話 ☎0467(75)0004
http://www.samukawa-jinja.or.jp

二之宮 かわわ 川勾神社



■延喜式内相模国二之宮
創建は11代孝仁天皇の朝議長國の國造たる阿屋兼造が御命を奉じて当國の鎮守のため創祀せりとある徳川家康より朱印地五十石を寄せられ隔年正月には江戸城へ登城し御祈神輿を献上することが例となり幕末まで続けられた。

交通 JR二宮駅より神奈中バス国府津行き「押切坂上」下車10分。
住所 神奈川県中部二宮町山西2122
電話 ☎0463(71)0709

三之宮 りびた 比々多神社



■延喜式内社 相模国三之宮
自時を忍ばせる350基に及ぶ古墳群を周辺に、林の巨木に囲まれた心ふるさと、泉屋太「うずらみか」(関東最古「木彫り狛犬」)他2000点に及ぶ資料を博物館に收藏。第3代淳和天皇より「延大明神」を賜る。幕府朝公が妻政子の安産祈願で神馬を奉納。徳川家康より神領の寄進。

交通 小田急線伊勢原駅よりバス15分
鶴巻温泉駅よりバス10分
住所 神奈川県伊勢原市三ノ宮1472
電話 ☎0463(95)3237

四之宮 さきどり 前鳥神社



■延喜式内社 学問と安全の宮
ご鎮座1630年の歴史をもつ古社で、ご祭神は応神天皇の皇太子。命は幼い頃より聡明で日本ではじめて論語・千字文を学んだ。鎌倉・江戸幕府などの崇敬も高かった。

交通 JR東海道線平塚駅北口下車
バス7・8番「前鳥神社前」下車3分
住所 神奈川県平塚市西之宮4-14-26
電話 ☎0463(55)1195

八幡宮 ひらつかはらまんどう 平塚八幡宮



■相模の国一國一社八幡宮
仁徳天皇68年この地方に大地震があり、国土安寧祈願のため応神天皇をお祀りしたのが創祀であります。ついに源頼朝公、徳川家康公の御信仰願を篤く、安産・育成・学業・武運の神として崇敬信仰を集めております。

交通 JR平塚駅北口より徒歩5分
住所 神奈川県平塚市滝間町1-6
電話 ☎0463(23)3315
http://www.hachimangu.org

総社 ろくしょ 六所神社



■相模国総社
権稲田命を祭神とし、平安の昔より相模国司(こくし)の参拝の宮として国府に鎮座。治承4年源頼朝公参拝、戦勝祈願など幕府の崇敬篤く、現在の御本殿、石垣は戦国大名小田原北条氏造営のものであります。

交通 JR二宮駅より神奈中バス平塚駅行き「国府新橋」下車3分。
住所 神奈川県中部大磯町国府本郷935
電話 ☎0463(71)3737